

## 北海道美唄尚栄高等学校

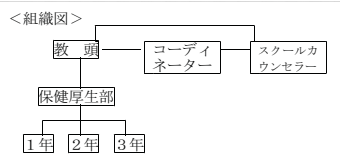
課程 全 日 制  
 学 科 総合学科  
 生徒数 336 名

### 1 取組の特徴

総合学科及び専門学科等における体験的な取組を活かし、生徒のコミュニケーション能力や人間関係構築力の育成を図る。

### 2 取組のねらい

前年度の課題からコミュニケーション能力を育成するための取組を広く実施することが必要であることを確認した。今年度は教育相談に係る校内研修を実施するなどして、教職員の指導力の向上を図り、日常の教育活動において生徒への指導に役立てることに重点を置いた。



### 3 取組の経過

体験活動の取組	12月	アセスの実施
・生産物販売会（4、7月）		校内研修会①「現在の若者の特徴と若者を伸ばす対応スキル」
・意見発表会（5、6月）		12月 高校生メンタルヘルス調査
・養護学校交流事業（10月）		1月 校内研修会②「高校生メンタルヘルス調査について」
・実績発表会（12月）		
・小学生との実習交流（9月）		
・SD（生活デザイン）プロジェクト（12、2月）		
・チャレンジショップ（10月）等		

### 4 取組の内容

#### (1) 第1回「学級適応検査」

ア 日 時 平成23年10月3日～7日 「アセス」  
 イ 対 象 全学年334名  
 ウ 検査結果（全学年平均）

【生活満足感】	50.5	【教師サポート】	52.4
【友人サポート】	51.2	【向社会的スキル】	52.2
【非侵害的関係】	49.2	【学習的適応】	51.9

#### エ 分析結果

・各適応次元の数値が40以下の人数（単位：人）

	1年次	2学年	3学年
生活満足感	15	22	5
教師サポート	17	14	4
友人サポート	17	16	7
向社会的スキル	9	21	0
非侵害的関係	31	16	8
学習的適応	10	12	15

- ・全学年平均では「非侵害的関係」（無視やいじわるなど、拒否的・否定的な友達関係がないと感じている程度）の数値が一番低く、40以下の人数も他の次元の数値に比べると最も多くなっている。特に1年次生が31人と多いが、上級学年では少ない。
- ・検査結果を分析して、校内研修において指導の重点を教員で確認した。

#### (2) 校内研修会①テーマ：「現在の若者の特徴と若者を伸ばす対応スキル」

ア 日 時 平成23年10月11日（火） 15：40～16：50  
 イ 対 象 本校教員  
 ウ ね ら い 教員の教育相談スキルの向上  
 エ 内 容 北海道スクールカウンセラー 太田 滋春 氏による講話  
 オ 成 果 「リラクゼーションスマイルトレーニング」により生徒への効果的なアプローチについて確認できた。

- ・「ビッグマリオン効果」や「アイズブレイク」の方法等、生徒の自己肯定感や安心感を高めるテクニックについて再認識することができた。



#### (3) 小学生との実習交流

ア 日 時 平成23年9月13日（火） 13：25～15：15  
 イ 対 象 本校食品システム科3年  
 ウ ね ら い 異年齢集団との合同実習による生徒の指導力や社会性の向上  
 エ 内 容 美唄市立南美唄小学校4年生と連携したハスカップジャムの製造  
 オ 成 果 ・小学生が生産したハスカップを材料としたジャム作りを合同で行うことで、地域の産物の活用について再認識するとともに、実習を通じて責任感や指導力及び人間関係構築力を養うことにつながった。

[生徒の感想]

「小学生に分かりやすく教えることが難しかったが、しっかりと話を聞いてくれたので良かった」、「頼りにされていることを感じて緊張した」



#### (4) チャレンジショップ

ア 日 時 平成23年10月14日（金） 10：00～13：00  
 イ 対 象 本校情報ビジネス科2・3年生  
 ウ ね ら い 販売会の企画・運営による組織作りやコミュニケーション能力の育成  
 エ 内 容 美唄市内の空き店舗を利用した生徒自らが企画・運営する全国各地の特産品販売会  
 オ 成 果 ・4月から生徒が商品の情報を収集し、製造元や販売元と直接交渉することで社会性やコミュニケーション能力の向上につながった。  
 ・運営のための役割分担を通して、組織作りや集団作りに対する意識が高まった。

【生徒の感想】

「電話で交渉するのが大変だったが少し自信がついた」、「一人では無理だが、皆と協力して企画・運営することによって、地域の活性化につながったとすれば良かったと思う」



(5) SD (生活デザイン科) プロジェクト

ア 日 時 平成23年12月21日(水) 11:50~12:40  
 イ 対 象 本校生活デザイン科2・3年  
 ウ ね ら い 課題研究(通年)における成果発表のための企画・立案を通じた、生徒の人間関係構築力や協調性、自己有用感・自己肯定感の育成  
 エ 内 容 生徒が作成した衣装により、生徒自身がモデルとして出演するファッションショー

オ 成 果 ・1年間を通じて取り組み、衣装を完成させることで衣装作成技術が向上して、自信を身に付けるとともに、協調性及び自己有用感を育成することができた。  
 ・3年生は達成感や成就感を味わい、上級生としての指導力が備わり、2年生は次年度に向けた目標を明確に持つようになった。

【生徒の感想】

「みんなで一つのものを作り上げた達成感を感じた」、「苦労したけど何とかショーを開くことができて良かった」、「3年間分の頑張りが表れた」



(6) 第2回「学級適応検査等の状況」

ア 日 時 平成23年12月19日~22日「高校生メンタルヘルス調査」  
 イ 対 象 1・2年生 222名  
 ウ 検 査 結 果

(7) 抑うつ傾向

K6尺度において得点が5点以上の場合、抑うつ傾向を持つ人の割合が高くなるといわれる。本校は、5点以上の生徒が多い。

5点以上

1年次生	97人(78.9%)	2年生	77人(77.8%)
------	------------	-----	------------

(4) 活動性

BADS尺度において得点が低い場合は、活動性の減少を表し、また、活動性の減少は、抑うつ傾向に大きく影響する。本校は、4.9点以下の生徒が半数以上を占めている。

4.9点以下

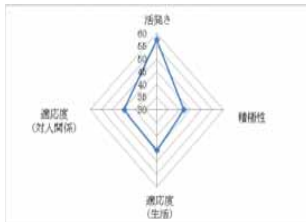
1年次生	68人(55.3%)	2年生	69人(69.7%)
------	------------	-----	------------

エ 分析結果

(7) 活動性検査

北海道医療大学富家准教授は、次のように分析している。学校全体が活発な状態である。生徒は、自主的に目標に向かって取り組み、活気あふれる学校づくりに成功している。一方、自分のしたくない作業でも、状況に応じて取り組もうとする積極性が若干低下しているようである。

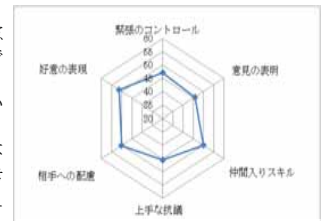
嫌なこともスモールステップで少しずつ取り組ませるとともに、各ステップが達成できるように称賛するなど自信を付けるような指導が必要と考えられる。



(4) コミュニケーションスキル検査

好意的表現と仲間入りスキル、相手への配慮が良好である。対人関係を良好に保つことができる親密な集団づくりに成功している。一方、意見の表明や上手な抗議が若干落ち込んでいる。

授業等において積極的に発言する機会や、不快な気持ちを相手に伝えるときの振る舞いを考える時間を、より一層多く設定することが考えられる。



5 次年度に向けて

(1) 成果

ア 中途退学者数及び不登校生徒数の推移

中途退学者数は、前年度より大幅に減少した。特に、1年次生では前年度と比較して8名減少した。

学 年	中途退学者数			不登校生徒数		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
平成22年度	14	7	2	6	2	0
平成23年度	6	3	0	9	2	1

イ 学級適応検査等の結果

高校生メンタルヘルス調査の結果からは多くの生徒に抑うつ傾向があることが分かった。分析資料から生徒個々の状況に応じた対応方法について、教員の理解を深めることができた。

ウ その他の指標による評価

保健室利用者数は、延べ1420名であり、前年度と比較して、407名減少した。

エ 教員の指導力向上については、校内研修会の充実により、教員の教育相談に関する知識や理解が一層深まり、日常における種々の教育活動で活かされた。

(2) 課題

本校は総合学科への転換が進行中であり、平成23年度は、1年次生は総合学科、2・3年生は普通科と農業、家庭、商業の専門学科が混在している。そのため、学科クラブの活動を中心とした独自の取組が多く、ステップアップ事業と関連付けた取組について、一層工夫する必要がある。

また、1年次生の中途退学者数や不登校生徒数が依然多い状況が続いており、対応が必要である。

(3) 次年度に向けて

これまでの校内研修会の実施で教師の教育相談スキルが向上したことから、今後は学科クラブの取組だけでなく、より多くの教育活動において教師が積極的に生徒に係わり、生徒のコミュニケーション能力や人間関係形成能力の育成に向けて体験的活動の充実に努める。

また、入学後できるだけ早い時期に学級環境適応検査等を実施して生徒の実態の把握に努め、教育相談体制の充実を図る。